

ラウンドテーブル 13:00~15:00 会場—1 1号館1402教室

アコースティック楽器と電子オルガンの共生
—ハイレゾを含む音楽制作、演奏会を通して見えてきた課題と将来性—

発表者： 深田 晃（洗足学園音楽大学）

赤塚 博美（洗足学園音楽大学）

ファシリテーター： 柴田 薫（昭和音楽大学）

書 記： 金銅 英二（松本歯科大学）

2017年2月、音楽大学で教鞭をとるヴァイオリン・マリンバ・電子オルガンの指導者・演奏家による演奏会を行った。さらにこの演奏会からCD制作の話が持ち上がり、試行錯誤をしながら録音を重ね2018年4月27日にCDが完成し発売となった。CD発売開始当日には、ヤマハホールでCD発売記念コンサートも開催した。この間、録音やコンサートで音響バランス エンジニアとして活躍の洗足学園音楽大学の深田先生から数多くのご示唆を頂いた。今回、この貴重な経験を会員の皆さまと供覧し、深田先生からの電子オルガンとアコースティック楽器とのバランスなどの問題、課題や将来性についてもご意見を伺いながら会員同士の意見交換、討論を行いたい。

発表者・ファシリテーター・プロフィール

深田 晃（ふかだ あきら）

洗足学園音楽大学客員教授。CBS/SONY（現 Sony Music Entertainment）録音部チーフエンジニア、NHK 番組制作技術部チーフエンジニアを歴任。数々のCD制作及びTV、映画音楽制作に関わる。1997年には独自のサラウンド録音方法である「Fukada Tree」を発表し、サラウンド録音の第一人者として広く知られる。AES(Audio Engineering Society) Fellow、英国 IPS(Institute of Professional Sound)会員。

赤塚 博美（あかつか ひろみ）

洗足学園音楽大学教授。インターナショナル・エレクトーン・コンクール入賞および川上特別賞受賞。オペラ伴奏者としての活動を始めてからは、ミラノ・スカラ座のG.ピサーニ氏に学び、数々のコンサートで共演。ソリスト、現代曲の初演、オペラ伴奏などでエレクトーン演奏の第一人者として国内外を問わず活躍中。

柴田 薫（しばた かおる）

横浜国立大学教育学部音楽科卒業。同大学院修了。電子オルガンによるクラシック演奏・現代曲演奏の分野を開拓。オペラ演奏、歌曲や合唱の伴奏、協奏曲などのアンサンブルを中心に演奏活動。一方、ソロ演奏は現代作品を得意とし、西村朗作曲《ヴィシュヌの瞑想Ⅱ》をはじめとして、数多く新作の初演を行っている。同じ日本発の楽器として電子楽器と対極にある邦楽器との共演による新しい音楽の可能性も数多く試み、国内外で好評を博す。現在、昭和音楽大学、同短期大学、同大学院非常勤講師。日本電子キーボード音楽学会会員。